

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 **一般・指定演題（実践報告）抄録用紙**

演題名 (全角 80 字以内)	情報連携システムを用いた在宅医療と介護の情報連携 ～石巻在宅医療・介護情報連携協議会の実践報告～
演者名	三好都子 ^{1,2} 、飯田佳孝 ^{1,2} 、小谷哲也 ^{1,2} 、園田愛 ^{1,2} 、武藤真祐 ^{1,2}
所属	1. 医療法人社団鉄祐会 祐ホームクリニック 2. 石巻在宅医療・介護情報連携協議会事務局

目的

在宅医療・介護の現場では、複数の関係者への情報共有は電話や FAX を用いることが多く、手間と時間を要している一方で、IT を用いた医療と介護の情報連携の取り組みが各地で展開されている。私たちは宮城県石巻市で、患者・家族の安心、医療・介護サービスの質の向上、連携に関わる作業量の軽減につながるような情報連携の在り方を、地域の医療・介護従事者とともに検討している。

実践内容

私たちは宮城県石巻市で、震災後に情報共有システムを用いた在宅医療・介護の情報連携に取り組み始め、2012 年～2013 年にかけて多職種間で訪問記録や訪問スケジュールを共有することが可能となった。同時に、関係者が集まるチーム会議を開催して意見交換の場を確保し、2014 年 7 月には在宅医療・介護事業所に加え、市、市の三師会、中核病院が参加する「石巻在宅医療・介護情報連携協議会」を立ち上げた。2014 年 10 月からは、システム上で行うメリットのある医療・介護情報の抽出やその運用方法の検討を主眼に置き、職種別のワーキンググループ（WG）を立ち上げ議論を重ねている。

実践効果

1. 協議会設立により、石巻市として情報連携システムを推進する体制が確立した。
2. 情報共有システムの活用により、医療・介護従事者が提供するサービスの質向上につながる情報内容と情報量が増えるとともに、各職種の業務効率化にもつながる。
3. 2014 年 10 月以降の取り組みの効果については、ワーキンググループでの議論、アンケートやログ追跡により、定性的・定量的に検証中。

考察

情報連携システムを通して、各職種の情報を共有する土台が構築され、石巻市として推進する仕組みに発展したことは成果である。一方で、各職種が必要な情報をシステム上で共有し活用する上では道半ばであり、実践と評価を通して多職種で検討を重ね、継続的に改善を重ねていく必要がある。